



A bridge of dream

アートディレクター

ヨシロットン  
YOSHIROTTEN さん

家が小学校から遠く山の麓にあったのですが、自然の良きを感じながらもアクティブに遊ぶわけではなく、色々な妄想をして楽しむ子ども時代を過ごしました。一転して、高校時代は音楽やスケボー、バイクに夢中に。中でも音楽は鹿屋という街からどこまでも想像を飛躍することができ、世界へ憧れるきっかけになりました。その後、東京の専門学校を卒業しデザイン会社に勤務。言葉で伝えることが苦手だったため「自分が

何者なのか、こんなモノを作っている」と分かるように作品集を持って行動していました。それが関係者の目に留まり、桑田佳祐さんのソロツアアのロゴ製作につながることに。これが世に認められた最初の作品で19歳の時でした。現在は独立し、海外のラグジュアリーブランドの作品をデザインしたり、香港で公園を作ったりと国内外を問わず多くのアート作品を作り続けています。20年間活動を続けてきた中で、今は自然

に興味を惹かれ、それが太陽をモチーフにした365点の作品「SUN」につながりました。私はモノを作っていないけれども何者でもなかったと思っています。そのため人の何倍もモノを作ってきましたし、色々なところに行つて多くのモノを見て、たくさんの人たちと出会ってきました。それらの経験が様々な選択を迫られた際に、仕事の可能性を拡げてくれます。自分がやりたいことが見つかったら何事にも飛び込んでいくことが大切で、鹿屋の若い人たちにも、やりたいことや好きなことに飛び込んでいく体験をしてもらいたいです。

鹿屋は自然が豊かで良いものがたくさんある土地です。また、自然だけでなく街がバランス良くあったことにも私自身影響を受けてきました。いつか鹿屋にも、自然とアートが入り混じった場所を手掛けてみたいと思っています。

### information

第一鹿屋中学校・鹿屋工業高校を卒業し、現在は東京在住。エルメス、カルヴァンクラインなどのラグジュアリーブランドや、山下達郎、スティーヴィー・ワンダーなどのミュージシャンのデザインも手掛けるアートディレクター。

- 【左】 ユクサおおすみ海の学校で11月25日・26日に開催された鹿屋市での初の個展。作品の「SUN」は、コロナ禍に1日1枚ずつ描き続けた色彩豊かな「太陽」をモチーフにした合計365点に及ぶ作品
- 【右】 音楽フェスティバル「SUMMER SONIC」と連携し、陸海空に及んだ作品「SUN」を展示。幕張の街と人をつないだアートが話題に